福井大学リポジトリ
UNIVERSITY OF FUKUI REPOSITORY

Elementary School and Lower Secondary School Students' Consciousness and Behavior of Clothing

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 細谷, 佳菜子, 服部, 由美子, 浅野, 尚美, 柘植, 泰子, 森, 透, HOSOTANI, Kanako, HATTORI, Yumiko, ASANO, Naomi, TSUGE, Hiroko, MORI, Toru メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/1658

福井大学教育実践研究　2007，第32号，pp.157－165

原　著

児童生徒の服装に対する意識と着装行動

福井大学大学院教育学研究科　細谷佳菜子
福井大学教育地域科学部　服部由美子
福井大学教育地域科学部附属小学校　浅野　尚美
福井市足羽第一中学校　柘植　泰子
福井大学教育地域科学部　森　透

本研究では，小学校高学年の児童とその保護者および中学生を対象に，服装に関するアンケート調査を行い，発達段階における意識の変化と保護者とのかかわり方を通して，ローティーンの子どもたちは成長と共に衣生活への関心が高まり，自立していく様子を明らかにした。また，保護者は子どもの意見を尊重しているが，衣服の購入にあたり素材や手入れなど機能性や価格を重視する傾向に対して，子どもは色やデザインなどの“見た目”を重視する傾向を示し，意識の違いが明らかになった。小学生では，ファッションに関する話題を通して親子間のコミュケーションが生まれていることも示唆された。

キーワード：ローティーン，保護者，ファッションに対する関心，自立，アンケート調査

1．はじめに

近年，ファッションの低年齢化が進み，ローティーン（小学校高学年から中学生）向けのファッション雑誌や，テレビやインターネットによって，子どもたちがファッションに関する情報をいたるところから容易に手に入れることのできる環境が整っている。また，芸能界の低年齢化など，テレビや雑誌でもジュニア歌手やモデルが活躍し，自分の憧れのアイドルやモデルを目標にオシャレに目覚める小学生が増えているようである。

ローティーンをターゲットにしたジュニアマーケットの動向[1)2)]が注目されているように，少子化によって保護者が子どもの成長にかける金額は大きくなる傾向[3)]にある。両親だけでなく，それぞれの祖父母を含めた６人が１人の子どもに物を買い与える“シックス・ポケッツ”，それに独身である叔父,叔母が加わり“テン・ポケッツ”という言葉も生まれている。これから社会的に自立しようとしている子どもたちにとって，保護者の影響は大きいと考えられる。

ファッションに関する情報が氾濫し，既製衣料を容易に入手できる環境において，多くの商品の中から自分に必要なものを判断して選択していく力すなわち意思決定力が求められる。学校教育の中でそれらの力を養うことのできる有効な学習内容や授業づくり，また心身の発達の著しい児童生徒の実態に応じた適切な指導方法を検討することも望まれる。

これまで，児童生徒を対象とした衣生活に関する研究は多方面[4)~11)]から行われている。また，日本家庭科教育学会では家庭生活について全国調査[12)13)]を実施し，その一環として衣生活についても検討されている。しかし，児童生徒の意識の変化と保護者とのかかわり方に関する報告は少ない。

本研究では，小学校高学年の児童とその保護者および中学生を対象に服装に関するアンケート調査を行い，児童生徒の生活の実態や保護者とのかかわり方を明らかにした。

2．研究方法

（1）調査対象者

調査対象者は，福井市およびその近郊に在住する小学生５・６年生とその保護者および中学生１～３年生である。調査対象者の構成は，表１のとおりである。小学校５年生67名，６年生72名，中学校１年生117名，２年生114名，３年生92名の計462名と小学生の保護者118名，計580名である。

表１　調査対象者

（単位：人）

校種	学年	男子	女子	合計
小学校	５年生	31（25）	36（34）	67（59）
	６年生	35（28）	37（31）	72（59）
	合計	66（53）	73（64）	139（118）
中学校	１年生	57	60	117
	２年生	58	56	114
	３年生	45	47	92
	合計	160	163	323
合　計		226（53）	236（64）	462（118）

（　）内の数字は、保護者数を示す。

なお，通学には制服を着用しているため，今回は制服を除く外出着を調査対象とした。

（２）調査内容

１）児童生徒

児童生徒の服装の実態を明らかにするために，衣生活に対する関心，衣服購入時の情報源と選択する人，外出時の服装をコーディネートする頻度について尋ねた。

「衣服を購入する際，何を参考にしますか」という質問に対して，「テレビ・雑誌・インターネット・友達・家族・お店のディスプレー・その他」の選択肢を設定し，参考にしている雑誌を自由記述の形式で尋ねた。

また，自由記述として「あなたが今一番したい服装（イラストや文で自由に書く）」「服装について，困ったことや感じていること」について尋ねた。

２）保護者

保護者については，保護者自身の衣生活に対する関心と，子どもの服装に対する意識として「お子様はファッションに興味があると思いますか」「お子様にはあなたの好きなファッションをさせたいと思いますか」「お子様の好きなファッションをさせたいと思いますか」という質問を設定した。また，子ども服を選択する基準について尋ねた。

「衣服を購入する際，どのようなことを気にしますか」という質問に対して，「店・素材・サイズ・似合うこと・他者が認めること・色・価格・デザイン・動きやすさ・手入れのしやすさ・流行・肌触り・ブランド名・その他」の選択肢を設定した。

保護者と子どもとのかかわり方を明らかにするために，「お子様とファッションについてのお話をされますか」，「お子様は自分の着たい服装を主張されますか」を尋ねた。

アンケートの最後には，「子ども服への要望を自由にお書きください」という自由記述欄を用意した。

（３）調査方法

Ａ３判の質問用紙１枚を，担当教員が授業中に児童生徒に配布し，その場で記入，回収した。保護者については，担任の教員から児童を通してアンケート用紙を各家庭に配布し，保護者が記入したものを児童を通して後日回収した。調査は，平成18年10月から11月にかけて実施した。

３．結果及び考察

（１）児童生徒の意識と着装行動

１）衣生活に対する関心

児童生徒の衣生活に対する関心を図１に示す。回答は５段階の評定尺度で求めている。無回答を除く回答数に対する割合（％）を示している。

全体的に学年が上がるにつれて，「非常にある」と「まあまあある」を合わせた肯定的な回答は増加し，「あまりない」と「全くない」を合わせた否定的な回答は減少する傾向を示し，衣生活に対する関心は高くなることが認められる。

男女を比較すると，「非常にある」と「全くない」に特徴が見られる。「非常にある」の割合は，男子では小５の０％に対して中３では14％を示し，徐々に増加しているが，女子では小５の時点で既に28.6％を示し，学年とともにゆるやかに増加している。「全くない」では，中２の男子では5.2％であるが，女子では小５の時点で既に5.7％と低く，中１以降ほとんど見られない。

これらのことから，男子よりも女子のほうが衣生活に高い関心を持っているが，男女ともにローティーンは衣生活への関心が高まる時期であるといえる。男子は小５頃から衣生活への関心を持ち始めるのに対し，女子では既にそれは高まっており，もっと早い時期から関心が芽生えていることが推察される。

２）衣服購入時の情報源

衣服購入時の情報源を表２に示す。回答は複数回答で求めている。学年ごとに割合（％）で示している。

全体的にみると，「お店のディスプレー」「家族」が１位，2位を占め，特に「お店のディスプレー」は学年・性別に関わらず，情報源として利用されている。また，「テレビ」「雑誌」「インターネット」は学年が上がるにつれて増加し，「家族」は減少する傾向を示している。

男子の場合，小５では「家族」「お店のディスプレー」を参考にし，「その他」の回答として「何も参考にしない」や「自分で購入しない」という意見が出るなど，衣服の選択購入に対して関心は低く示されたが，小６以降

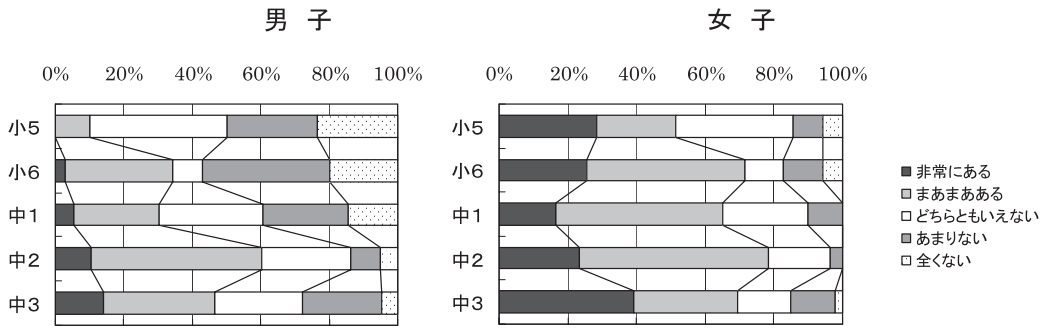

図１　衣生活に対する関心

表２　衣服購入時の情報源

（単位：％）

対　象		テレビ	雑　誌	インターネット	友　人	家　族	ディスプレー	その他
男子	小５	6.5	0.0	0.0	0.0	35.5	32.3	38.7
	小６	11.4	8.6	11.4	17.1	37.1	31.4	17.1
	中１	12.3	1.8	5.3	7.0	36.8	40.4	28.1
	中２	24.1	13.8	13.8	29.3	32.8	48.3	13.8
	中３	15.6	17.8	24.4	11.1	31.1	37.8	31.1
女子	小５	8.3	27.8	16.7	13.9	66.7	58.3	25.0
	小６	13.5	43.2	8.1	37.8	32.4	62.2	8.1
	中１	23.3	48.3	3.3	20.0	41.7	53.3	13.3
	中２	17.9	62.5	12.5	32.1	32.1	66.1	7.1
	中３	21.3	61.7	12.8	25.5	14.9	48.9	19.1

では「テレビ」「雑誌」「インターネット」「友人」の回答はいずれも増加する傾向を示している。特に，中３の男子において，「インターネット」の項目の伸びが大きく，情報収集の手段として頻繁に利用していることがうかがえる。また，小５から小６にかけてほとんどの項目が増加しており，図１に示しているように衣生活への関心の高まりが，情報収集への活発さに影響していることが推察される。

女子の場合，学年が上がるにつれて「テレビ」「雑誌」「友人」は増加し，「家族」「お店のディスプレー」は減少する傾向にある。特に，「雑誌」と「家族」の変化は著しく，「雑誌」の回答率は小５では27.8％に対し中３では61.7％に増加し，「家族」については小５では66.7％に対し中３では14.9％に低下し，対照的な推移を示している。また，小５ですでに「インターネット」を利用している児童がいることにも注目される。

これらのことから，児童生徒は成長に伴い，情報源を「家族」や「お店のディスプレー」から「雑誌」と「インターネット」に移行して，主体的に衣服に関する情報を収集しようとしていることがうかがえる。また，「雑誌」の回答は女子では圧倒的に多く，これは衣生活への関心も要因として考えられるが，ローティーン向けの雑誌は男子向けのものがほとんどなく，女子向けのものが多く創刊されている社会状況の影響も大きいと考えられる。

読まれている雑誌として，男子では７種類，女子では27種類があげられた。男子では小５から中２までは回答はなく，中３の男子が読んでいる雑誌は「MEN’S NON–NO」，「FINE BOYS」，「BiDaN」，「smart」，「DANCE STYLE」，「キラリ！」，「GQ」である。

女子に読まれている雑誌のうち，各学年において回答率10％以上の雑誌を表３に示す。小５ではすでに雑誌を読んでいる児童もみられ，雑誌への関心の高さがうかがえる。読まれている雑誌は学年により異なり，小学生では「nicola」が主流であるが，中学生では学年により異なり，中１では「nicola」「Hana＊chu→」「SEVENTEEN」，中２では「Hana＊chu→」「SEVENTEEN」，中３では「SEVENTEEN」と移り変わっている。また，中３では「CanCam」などの20代向けの雑誌も読まれている。

表３　参考にしている主な雑誌

学　年	雑　誌　名
小５ n=36	nicola(6)
小６ n=37	nicola(5)
中１ n=60	nicola(9),SEVENTEEN(10), Hana*chu→(9)
中２ n=56	SEVENTEEN(28), Hana*chu→(15)
中３ n=47	SEVENTEEN(21), CanCam(5)

（　）内の数字は、回答者数を示す。

雑誌の内容について，「nicola」「Hana＊chu→」は児童生徒を対象とした雑誌で，その内容はファッションに関する情報に限らず，部活やお弁当，筆記用具などの学校生活に関する内容や，プリクラや写メール，ゲームなど，ローティーンの関心の高いものの特集など様々な内容が展開されている。特に，読者投稿（読者から寄せられた学校生活の情報や悩みの相談などが紹介されているもの）のページ数が多くとられていることが特徴である。また，「SEVENTEEN」は，ファッションに関する情報が中心の雑誌で，学年が上がるにつれて前者から後者の雑誌が読まれるようになっている。児童生徒は，学年が上がるにつれて実際の年齢よりも高い対象年齢の雑誌を読む傾向にあり，早く大人に近づきたいという欲求もあると考えられる。

３）購入時に衣服を選択する人

購入時に衣服を選択する人を図２に示す。回答は複数回答で求めている。回答数は項目ごとに割合（％）で示している。

男子では，学年が上がるにつれて「自分」の回答率は増加し，中２以降では90％以上を示している。「自分」以外の項目は減少する傾向にある。また，「自分」と「母」に注目すると，「自分」の回答率が高くなるにつれて「母」の回答率は低くなる傾向を示している。小学生では，ほとんどの児童は「母」の影響を受けているが，中学生になると「母」の影響を受ける生徒は減少している。

女子では，「自分」の回答率が最も高く，学年に関係なく95％前後を示している。小５で既に高い値を示しているため学年に伴う変化は少ないが，増加する傾向がみられる。「母」の影響は大きいが，小学生と比べて中学生では減少する傾向を示し，横這いになっている。

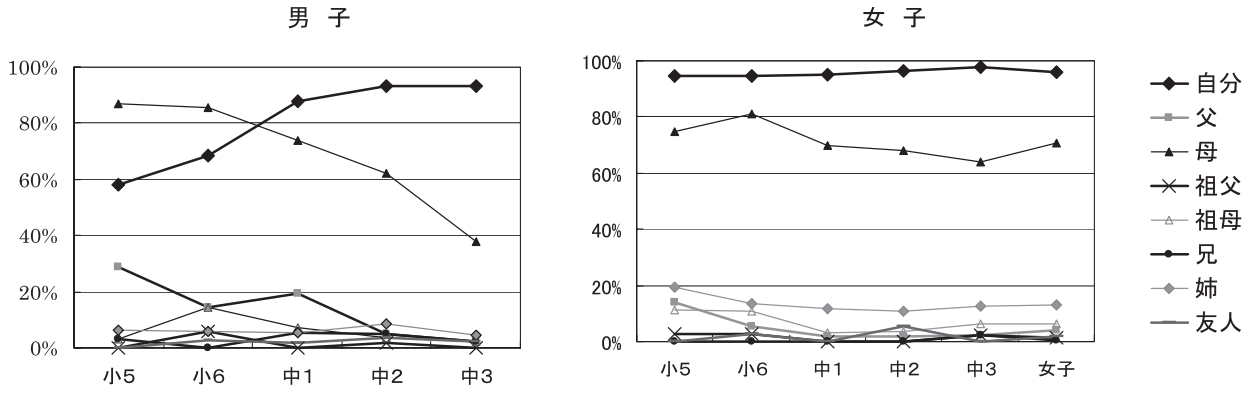

図２　衣服を選択する人

男女で比較すると，男子よりも女子のほうが「自分」の回答率は高く示されているが，その差は中学生では縮まっている。「母」以外では，男子では「父」「兄」，女子では「姉」「祖母」の影響もうかがえる。

これらのことから，男子においては中２以降，女子では学年に関係なくほとんどの児童生徒が自分で衣服を選択する機会を得ている。「母」は，学年が上がるにつれて回答率は減少しているものの，他の項目に比べて高い割合を示しており，衣服の選択において子どもに与える影響が大きいことが認められる。学年が上がるごとに衣服の選択において自立度が高くなり，その結果家族への依存度が低くなっていると考えられる。そして，異性の家族よりも同性の家族が衣服の選択に影響を与えていることが推察される。

４）外出時の服装を自分でコーディネートする頻度

外出時の服装を自分でコーディネートする頻度を表４に示す。回答は４段階の評定尺度で求めている。学年ごとに無回答を除く回答数に対する割合（%）を示している。

男子では，「いつもする」は小５では25.8%とまだ低いが，徐々に増加し，中３では70.5%までに達している。また，「全くしない」「あまりしない」の否定的な回答は小５では48.4%，小６では31.4%，中１では29.8%，中２では10.9%，中３では9.1%と学年が上がるごとに減少している。

女子では，「いつもする」は小５では62.9%と既に高く，この割合は徐々に増加し，中３では89.4%にのぼっている。これに対して，「全くしない」は小５でも2.9%と低く，小６からは０%である。

これらのことから，ほとんどの児童生徒は自分で外出着をコーディネートする機会があることがわかる。また，男子において，学年が上がるにつれて多くの児童生徒が主体的にコーディネートを行うようになってきている。女子では，小５からすでにほとんどの児童が服装のコーディネートを自分で行っており，中３ではほとんどの生徒が日常的に服装のコーディネートを自分で管理しようという意識が高いことがわかる。

表４　外出時の服装を自分でコーディネートする頻度

（単位：%）

学　年		いつもする	ときどきする	あまりしない	全くしない
男子	小５	25.8	25.8	32.3	16.1
	小６	48.6	20.0	22.9	8.6
	中１	45.6	24.6	14.0	15.8
	中２	61.8	27.3	9.1	1.8
	中３	70.5	20.5	6.8	2.3
女子	小５	62.9	31.4	2.9	2.9
	小６	77.8	16.7	5.6	0.0
	中１	84.7	13.6	1.7	0.0
	中２	83.6	16.4	0.0	0.0
	中３	89.4	8.5	2.1	0.0

（２）　保護者の意識と着装行動

１）子どもの服装に対する意識

保護者自身に対する衣生活への関心と子どもの服装に対する意識を表５に示す。回答は５段階の評定尺度で求めている。

「衣生活に興味がありますか」に対して，「非常にある」という保護者は少ないものの，「まあまあある」の回答は多く，「あまりない」「全くない」の否定的な回答は少ないことから，衣生活への関心の高さがうかがえる。保護者の関心の高さが，子どもたちの衣生活への関心の高まりに影響を与えている可能性も考えられる。

保護者から見た子どもの衣生活に対する興味関心は，「あまり思わない」と「全く思わない」を合わせた回答は男女ともに学年が上がるにつれて減少している。図１の子どもの評価と表５の保護者から見た子どもの衣生活に対する関心度を比較すると，「非常に思う」と「まあまあ思う」を合わせた値は，男女共に小５の保護者では実際の子どもの関心度よりも高く評価されているが，小６では保護者と子どもの関心度のずれは少なくなっている。

「お子様にはあなたの好きなファッションをさせたいと思いますか」「お子様に子どもの好きなファッションをさせたいと思いますか」に対して「非常に思う」と「まあまあ思う」を合わせた肯定的な回答は，どの学年・性別の子どもの保護者も60%前後を示し，「あまり思わない」と「全く思わない」を合わせた否定的な回答は前者

表５　保護者の意識

（単位：％）

質問内容	学年	男子 ①	男子 ②	男子 ③	男子 ④	男子 ⑤	女子 ①	女子 ②	女子 ③	女子 ④	女子 ⑤
衣生活に興味がありますか	小5	16.0	68.0	16.0	0.0	0.0	5.9	76.5	14.7	0.0	2.9
	小6	14.3	71.4	10.7	3.6	0.0	12.9	51.6	16.1	19.4	0.0
お子さまはファッションに興味があると思いますか	小5	8.0	20.0	24.0	28.0	20.0	23.5	44.1	14.7	14.7	2.9
	小6	7.1	21.4	28.6	35.7	7.1	6.5	61.3	12.9	19.4	0.0
お子様にはあなたの好きなファッションをさせたいと思いますか	小5	12.0	52.0	24.0	8.0	0.0	8.8	50.0	26.5	8.8	5.9
	小6	17.9	53.6	14.3	10.7	3.6	9.7	45.2	25.8	19.4	0.0
お子様の好きなファッションをさせたいと思いますか	小5	16.0	48.0	28.0	4.0	0.0	5.9	58.8	35.3	0.0	0.0
	小6	3.6	50.0	35.7	7.1	0.0	0.0	71.0	22.6	6.5	0.0

①　非常にある（思う）　②　まあまあある（思う）　③　どちらともいえない　④　あまりない（思わない）　⑤　全くない（思わない）

では20％以下，後者では10％以下である。小学生では，女子よりも男子児童の保護者の方が自分（保護者）の好きな服装をさせたいと思う傾向がある。

保護者は子どもと自分の意見の両方から衣服を選択しようとしていることが推察される。

２）子ども服購入時の選択基準

保護者および児童の衣服購入時の選択基準を図３に示す。回答は複数回答で求めている。学年ごとに回答を割合（％）で示している。

半数以上の保護者から回答のあった項目は,「素材」「サイズ」「似合うこと」「価格」「デザイン」「動きやすさ」「手入れのしやすさ」であり，回答の少なかった項目は「他者が認めること」である。また，男女で比較すると，「素材」は男子の保護者から,「似合うこと」は女子の保護者から回答が多い。

小学生の男子では,「動きやすさ」以外の項目において学年が上がるにつれて増加する傾向を示し，特に「価格」「デザイン」「流行」の変化が顕著にあらわれている。小６では「流行」や「ブランド名」を意識して衣服を選択している児童がいることに注目される。

女子では,「サイズ」「似合うこと」「デザイン」の回答率が高く，どの学年においても80％近い値を示している。小５では「流行」22.2％,「ブランド」30.6％と既に高いことから，もっと早い時期からファッションを意識している児童のいることが予想される。また，学年が上がるにつれて「店」「他者が認めること」「価格」「流行」の項目は増加する一方で,「動きやすさ」「肌触り」「品質」「素材」は減少する傾向にある。

これらのことから，子どもは機能性よりも“見た目”を重視する傾向に対して，保護者は“見た目”よりも機能性や価格を重視する傾向にあり，衣服購入時の選択基準において保護者と子どもの意識の違いが明らかとなった。また，保護者が機能性や価格を重視する理由として，子どもの生活管理やしつけ，衣服の洗濯や衣服管理など様々なことを担っていることが影響していると考えられる。

（３）ファッションを通した親子のかかわり方

「親子間でファッションに関する話をする頻度」を図４に「子どもが自分の着たい服装を主張する頻度」を図５に示す。回答は４段階の評定尺度で求めている。無回答を除く回答数に対する割合（％）を示している。

男子の保護者では，ファッションについての話を「いつもする」と「ときどきする」を合わせた割合は小５では32％に対し，小６では57.1％まで高くなっている。ま

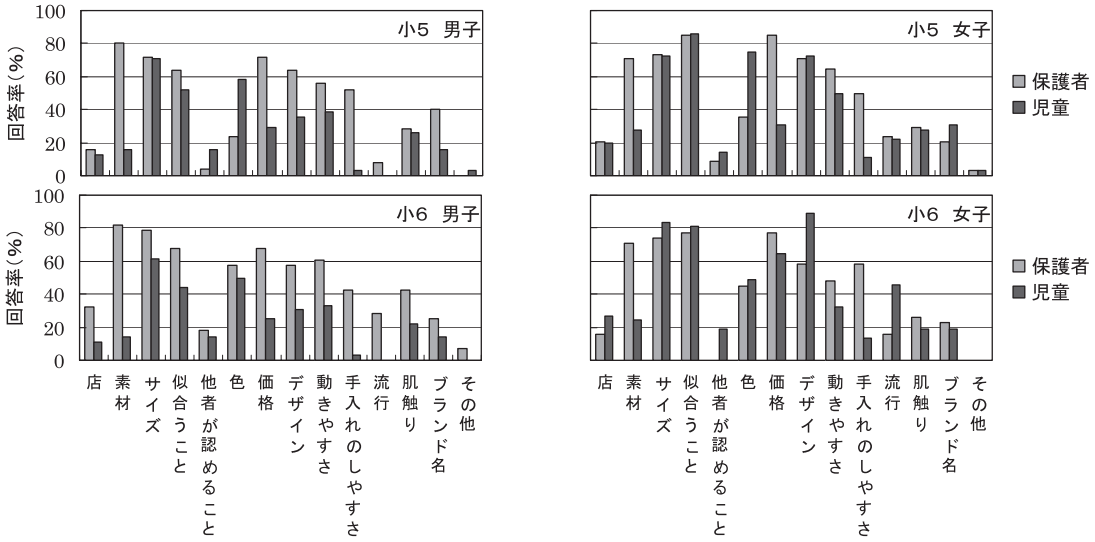

図３　衣服購入時の選択基準

た，「全くしない」は小５では16.0％あるが，小６では10.7％と低くなっている。女子の保護者では，小５の58.8％と小６の58.1％でいずれも高い。「全くしない」の割合は，小５で5.9％に対し，小６では０％となっている。

これらのことから，高学年の小学生では親子間でファッションの話題が活発に行われるようになっていることがうかがえる。親子のコミュニケーションを図るうえで一役を担っていると思われる。

子どもが自分の着たい服装を主張する頻度は，「いつもする」と「ときどきする」は学年による変化は少なく，「全くしない」の割合が男女共に学年が上がるにつれて減少している。

男子では，子どもが自分の着たい服装を主張する割合は，学年に関わらず約60％を示している。また，「全くしない」と答えた割合は小５では16％あるが，小６では7.1％と減少している。

女子では，子どもが自分の着たい服装を主張する割合は学年に関わらず約80％と高く示され，「全くしない」は小５で5.9％と既に低く，小６では０％である。

これらのことから子どもが着たい服装を主張したりする回数は学年と共に増えていると判断できる。また，男子よりも女子のほうが自分の着たい服装を主張する傾向にある。

４．児童生徒の服装の現状と課題

（１）児童生徒が今一番したい服装

自由記述の質問に対してイラストや文章で書かれた内容から，キーワードを抽出し，児童生徒の服装の現状と課題について検討した。

「今一番したい服装」として，①流行を意識した内容，②あこがれの服装，③自分の気に入っている服装，④現実的な服装，⑤具体的なコーディネートの５項目に分類し，回答数を表６に示す。

「①流行を意識した内容」は，「コーディネート」「服装のイメージ」「流行に合った服装」に関する記述である。「②あこがれの服装」には「ブランド名」「タレントやモデル」「具体的なアイテム」に関するキーワードが抽出され，自分のしたい服装を具体的にイラストを描いている児童生徒が多かった。小学生ではＴシャツ・Ｇパン・トレーナーなど動きやすいアイテムが多くあがっているのに対し，中学生ではブーツやネクタイ，ワンピースなどのデザイン性の高いアイテムがあがっており，フレアスカート・プリーツスカートなど，アイテムをより詳細にイメージしている。

「③自分の好きな服装」には「色」「デザイン」「自分に似合う服装」「自分の好みに合った服装」，「④現実的な服装」には「機能性」「ＴＰＯ」「値段」「楽な服」などのキーワードが抽出された。「楽な服装」として，多種多様なアイテムがあげられた中で，多くの児童生徒から意見があったのは“ジャージー”である。他に“楽な服装”“着やすい服装”“そのまま寝ることのできる服装”という意見も多くあったことから，着やすく動きやすい服装が求められていることがわかる。

「⑤具体的なコーディネート」には，女子では服のデザインについて色や柄，素材など細かい設定がされているものや帽子，ネックレス，靴下などの小物までも意識してコーディネートを考えている児童がおり，アイテム

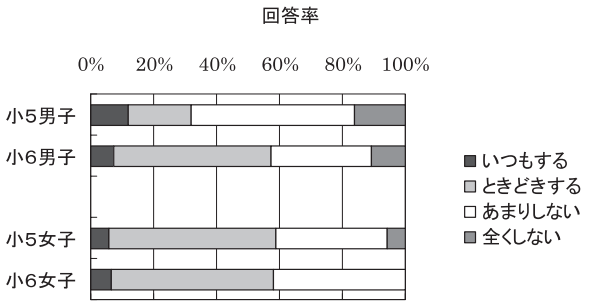

図４　親子間でファッションに関する話をする頻度

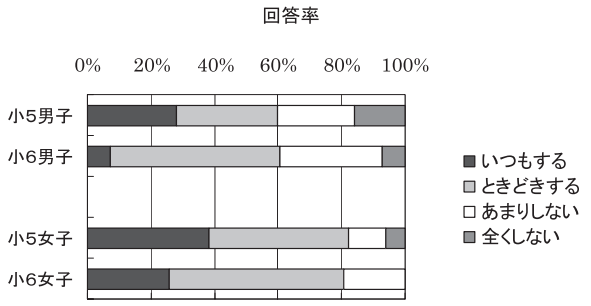

図５　子どもが自分の着たい服装を主張する頻度

表６　今一番したい服装

（単位：人）

項　目	男子					女子				
	小5	小6	中1	中2	中3	小5	小6	中1	中2	中3
①流行を意識した服装	2	6	4	11	6	5	10	15	17	10
②あこがれの服装	5	1	4	6	7	7	10	16	16	11
③自分の気に入っている服装		1	5	2	1	1	2	8	2	1
④現実的な服装	7	7	18	10	8	5	14	24	16	14
⑤具体的なコーディネート		1	10	3	2	4	12	11	6	8

表７　服装について困っていることや感じていること

（単位：人）

項　目	男子					女子				
	小5	小6	中1	中2	中3	小5	小6	中1	中2	中3
①コーディネートの悩み		1	1	5	5			6	6	5
②衣服購入に関する悩み	1		7	3	15		1	18	9	14
③成長期の悩み			1		1		2	2	2	
④保護者との意見の違い	1		2	1	2					

も，「ロングニット」や「ロングカーディガン」，「レギンス」，「ニーハイソックス」，「ショートパンツ」など流行のアイテムやスタイルのコーディネートが多くみられ，ファッションへの興味関心の高さが示されている。男子では，コーディネートを意識した回答は小５ではいないが，小６に１人みられ，中１になると急激に増えている。イラストには重ね着が多く，特にＴシャツにチェックのシャツをはおるスタイルが多く描かれていた。色では「青と白」，「黒と白」などの組合せの記述が多くみられた。

（２）服装について困っていることや感じていること

「服装について困っていることや感じていること」として，特に多くの児童生徒から記述のあったキーワードをもとに，①コーディネートの悩み，②衣服購入に関する悩み，③成長期の悩み，④保護者との意見の違いの４項目に分類し，回答数を表７に示す。

記述は小学生よりも中学生に多く，中学生の方が服装に関する問題点をよく考えている傾向が示された。この点については，中学校学習指導要領[14]では「〔家庭分野〕２　内容　　Ａ　生活の自立と衣食住　（３）衣服の選択と手入れについて，次の事項を指導する。ア　衣服と社会生活とのかかわりを考え，目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できること。」とあり，「衣服の社会生活上の機能を中心に取り上げ，時・場所・場合に応じた衣服の着用や，着方によって人に与える印象が異なることに気付かせ，自分らしい着方の工夫ができるようにする」[15]と解説されているように，中学校技術・家庭科における家庭分野の学習効果がうかがえる。

「①コーディネートの悩み」として「コーディネートの仕方」「手持ちの服が少ない」，「②衣服購入に関する悩み」として「サイズの合う服・靴がない」「自分の好みに合う服が見つからない」「値段が高い」「店が少ない」，「③成長期の悩み」として「すぐに服が小さくなる」というキーワードが抽出された。サイズの合う服が見つからないという悩みも多くあがり，特に150から160のサイズが不足しているようである。また，「④保護者との意見の違い」として“だらしないと言われる”や“文句を言われる”など，保護者との服装に対する意見やセンス，好みの違いをあげる児童生徒もいた。

（３）保護者の子ども服への要望

「保護者の子ども服への要望」として抽出された意見をもとに，①保護者の価値観に関する記述（63名），②機能性に関する記述（23名），③ファッション性に関する記述（22名），④子どもの力に関する記述（15名）の４項目に分類した。

「①保護者の価値観に関する要望」として，「低価格なもの」（16名），「子どもらしい服」（15名），「兄弟・姉妹で着ることのできる服」（７名），「派手すぎない服」（11名），「大きいサイズ（150や160）の子ども服・靴が少ない」（14名）があげられ，子ども服の市場への問題意識や要望，あるいは，保護者自身の方針に基づいた意見であると考えられる。子ども服市場への問題意識として，“ブランドやデザイン重視”“流行を追った同じ店ばかり”“Ｔシャツ１枚が１万円など，大人より高価”“衣類にお金がかかりすぎる”などの意見がみられた。また，保護者自身の方針として，“子どもらしい服”を求める声が多く，その逆の表現として“大人の縮図”“小さい大人”などの言葉を用いて，今の子どもたちのファッションを批判する内容も見られた。子どもらしい服として，“かわいらしい”“品がよい”“清楚”“子どものときにしか着られない服”“流行に左右されず，個性があり，目立ちすぎず，地味すぎず”などの表現が用いられていた。また，子どもの成長の早さを意識し，低価格なものが良いという意見も多かった。特に成長の早い子どもでは，子ども服と大人服の間の時期に衣服の種類もサイズも，既製服が合わないという意見も見られた。

これらのことから，保護者の価値観として，子どもの成長や活動に合った衣服の選択を重視していることがわかる。

「②機能性に関する要望」として，「動きやすい服」（８名），「着心地の良い服」（15名），「洗濯しやすいもの・型崩れしないもの・色落ちしないもの」（７名），「丈夫なもの・長持ちするもの」（７名）があげられ，活動的な子どもの生活を意識し，動きやすいことや衣服管理に対する記述が多くみられた。また，洗濯や衣服の手入れを気にした記述が見られることが子どもと異なる特徴である。

「③ファッション性に関する要望」として，「デザインの良いもの」（２名），「男の子用のファッション雑誌が欲しい」（１名），「露出度の少ないもの」（５名）があげられ，流行を追うことを問題視している保護者が多い反面，“流行に乗っていかないと，子どもが惨めになる”などの意見もあり，デザインやファッション性も無視できないといった現状がうかがえる。“実用的でモダンなデザイン”“価格が手ごろで強度に優れ，動きやすく，

デザインの良いもの”といったような，いくつもの要素を兼ね備えている衣服への要望が高い。

「④子どもの力に関する要望」として，「自分で衣服を選択する力」（５名)），「個性を育てる力」（３名），「ＴＰＯ」（４名），「ファッションセンス」（３名）があげられ，“自分で衣服を選択する力をつけて欲しい”という意見もみられ，衣服の選択を通して，“個性を伸ばす”“ＴＰＯを学ぶ”“ファッションセンスを磨く”力をつけて欲しいという記述がみられた。

本研究を通して，ローティーンの子どもたちは成長と共に衣生活への関心が高まり，自立していくうえで重要な時期であるといえる。今回の調査では，アンケートに回答できる年齢を考慮して，対象学年を小学校５年生からに設定した。しかし，女子では小学校５年生で既に高いファッションへの興味関心が示され，芽生えの時期を特定できなかった。今後，対象学年を低学年までに広げた調査が必要であると思われる。また，今回は児童生徒の服装に関する意識と着装行動の実態を把握するにとどまったが，この調査をもとに子どもの実態にあった教育内容について検討していくことが，今後の課題である。

５．まとめ

児童生徒の服装に対する意識と着装行動の実態を明らかにするため，小学校高学年の児童とその保護者および中学生を対象に，衣生活に対する関心や衣服の選択，購入，着用時の様子をアンケート方式で調査した。その結果，以下のようなことが明らかになった。

１）ローティーンは成長と共に衣生活への関心が高まる時期で，男子は小学校５年生頃に芽生えた衣生活への関心が中学校３年生まで徐々に高まっていっている一方，女子では小学校５年生ですでに半数近い児童が関心を持っており，さらに早い段階で衣生活への関心が芽生えていることが推察される。衣服の購入には「母」の影響が大きく，同性の家族の影響もみられるが，衣生活への関心の高まりに伴い，購入時に自分で衣服を選択したり，外出時の衣服を自分でコーディネートしたりするなど，自立度は高くなる。

２）衣服購入時の情報源は，男女とも「お店のディスプレー」の回答が最も多く，女子では「雑誌」も多い。学年が上がるごとに，「テレビ」「雑誌」「インターネット」の回答は多くなり，「家族」は少なくなることから，衣服への関心が高まるにつれて自分自身で主体的に情報を収集しようとしている。ファッション雑誌への興味関心は，男子では中学校３年生から，女子では小学校５年生からみられる。

３）自由記述では，児童生徒の衣生活への関心の高さが示され，今一番したい服装としてデザインや色，機能性，コーディネートを意識した内容，ＴＰＯに関するものが抽出された。衣服について困っていることや感じていることとしては，機能性や衣服管理について改善を求める意見が多数あった。また，あこがれのモデルやタレントの存在が，衣服への関心の刺激となっている。

４）保護者の衣生活に対する関心度は高く，「子どもに自分の好きな服装をさせたい」という意見と「子どもに子どもの好きな服装をさせたい」という意見はほぼ同じ割合を示し，子どもと自分の意見の両方から衣服を選択しようという保護者が多い。しかし，衣服購入時の選択基準は，児童生徒は「似合うこと」「デザイン」「色」などの“見た目”を重視する傾向に対して，保護者は素材や手入れなど機能性や価格を重視する傾向を示し，考え方の違いがみられる。子ども服への要望としては，子どもの成長を考えて「低価格にして欲しい」という意見や「洗濯しやすいもの・丈夫なもの・動きやすいもの」という活発な子どもの運動を考えての意見，「ファッション性が重視されすぎて子どもらしい服が少ない」という心配の意見，「高学年用（150～160）の子ども服が少ない」という意見が多い。学年が上がるごとに，子どもが自分の着たい服装を主張する回数や親子間でのファッションについての話題が活発になる傾向があり，親子のコミュニケーションが生まれていることが示唆された。

本研究を進めるにあたり，アンケート調査にご協力下さいました関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

引用文献および参考文献

１）　畑菜穂：ジュニア市場の動向
http://group.dai−ichi−life.co.jp/dlri/monthly/pdf/0311_a.pdf

２）　エリッサ・モーゼス，田中洋訳：『ティーンズ・マーケティング－1000億ドル市場の攻略法』，　ダイヤモンド社，東京（2002）

３）　友成洋輔他：ローティーン・アパレル市場に対する一考察
http : //www001.upp.so−net.ne.jp/tensemi_2005/cosme_kison_arima.pdf

４）　増淵哲子・武井洋子：児童生徒の消費行動（第１報）－衣生活領域について－，日本家庭科教育学会誌，31，21－27（1988）

５）　岡村美乃里・諸岡晴美・中川眸：小・中・高等学校における体系的な衣生活教育に関する研究（１）－衣服購入および衣服整理についての調査から－，日本家庭科教育学会誌，40，39－46（1997）

６）　岡村美乃里・諸岡晴美・中川眸：小・中・高等学校における体系的な衣生活教育に関する研究（２）－衣服の補修・廃棄と衣生活領域への関心についての調査から－，日本家庭科教育学会誌，41，５－32（1998）

7）　小松恵美子・森田みゆき・藤本尊子：道内の児童生徒の衣生活実態に応じた被服教育の提案－1991年と1998年の調査の比較から－，北海道教育大学へき地教育研究施設「へき地教育研究」，第57号，(2002)
8）　矢野由起：生活事象や生活行動に対する小学生の理解（第１報）－衣生活および食生活分野を中心に－，日本家庭科教育学会誌，45，41－51（2002）
9）　長山芳子他：児童生徒の家庭生活における意思決定の背景(第１報)，日本家庭科教育学会誌，49，93－102（2006）
10）　松尾美江・滝山桂子・益本仁雄：衣生活システムの概念を導入した中学生の衣生活の実態分析（第１報）－学習関心と行動の契機－，日本家庭科教育学会誌，48，206－215（2005）
11）　滝山桂子・松尾美江・益本仁雄：衣生活システムの概念を導入した中学生の衣生活の実態分析（第２報）－自己情報の保有状況および属性別比較－，日本家庭科教育学会誌，48，216－225（2005）
12）　日本家庭科教育学会編：『児童生徒の家庭生活の意識・実態と家庭科カリキュラムの構築－家庭生活についての全国調査の結果－』，日本家庭科教育学会，東京（2002）
13）　日本家庭科教育学会編：『児童生徒の家庭生活の意識・実態と家庭科カリキュラムの構築－「家庭生活についての全国調査」の質的分析とクロス集計結果－』，日本家庭科教育学会，東京（2003）
14）　文部科学省，中学校学習指導要領(平成10年12月)，国立印刷局，85（2007）
15）　文部科学省，中学校学習指導要領(平成10年12月)解説―技術・家庭科編―，東京書籍，56（2006）

Elementary School and Lower Secondary School Students' Consciousness and Behavior of Clothing

Kanako HOSOTANI, Yumiko HATTORI, Naomi ASANO, Hiroko TSUGE and Toru MORI

Key words : early teens, parent, interest in fashion, independence, questionnaires